■遺伝子は受継がれる

遺伝子は、幅が１ミリメートルの50万分の１という超々ミクロのテープで、それは文字の役目をする４種類の分子の環の連結によって作られた鎖状のテープです。それが細菌のものは２百万個の環で作られてゐますが、人間のものは30億個もの環が連結してゐるので、２重の螺旋状に折り畳まれて細胞核の中に納められてゐるのです。

この30億個の環を文字とすれば、遺伝子の内容は、１ページ千字で書かれた３百ページの本に直すと１万冊の本になるわけです。これには、単細胞生物から進化して人間に成るまでの30億年に亘る生物の歴史が刻まれてゐるのだと言ふことです。それで今でも人は、妊娠から誕生までの間に、この30億年に亘る生物の発展の歴史を１つ１つ踏んで人間に成るのださうです。

我々の人体は、約60兆個の細胞によって作られてゐるといひますが、頭の髪の毛から足の爪先に至るまで、いろいろな種類の細胞があり、これが総てこの１万冊という膨大な人体設計書である遺伝子に拠り、設計書通りにいささかの違ひも無く構築されるのです。体のどこが傷ついても直に元通りに修復されるのは、総て設計書に従って忠実に作られるからなのです。

30億年の昔、どうした訳か全く判りませんが、この地球上に１つの細胞が誕生しました。これが30分ごとに分裂しましたので、１日と経たぬ間に十兆を超す仲間に殖えました。これらは皆同じ遺伝子で作られましたから、全く同じ細胞でした。然し、何億年といふ間に、ある細胞が何かの影響を受けて遺伝子の一部に変化を生じ、異った細飽が作られ、また、細胞同士が結合しました。かうして30億年間にいろいろな生物が出現し、今から百万年前、遂に人間が誕生したのです。従って、僅か２百万字の設計書が30億字といふ膨大な設計書に発展したのです。

人体を構成する細胞は、初めは勢ひよく分裂し成長しますが、やがてそれは弱まり、老化して最後は死ぬのです。然し、その遺伝子はその前に子に受継がれ、生命は再び勢ひを盛返します。小さな“我”は老化し、亡びますが、生命の本体である遺伝子は我が子に受継がれ、生き続けて行くのです。かう考へますと、自分の肉体は親の異体であり、また30億年を生き通して来た貴重な存在であり、とても粗末には出来ないといふ気持が強まります。